

氏 名	もり 森 佳 子
学位(専攻分野)	博 士 (農 学)
学 位 記 番 号	農 博 第 1215 号
学位授与の日付	平 成 13 年 11 月 26 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研 究 科 ・ 専 攻	農 学 研 究 科 生 物 資 源 経 済 学 専 攻
学 位 論 文 題 目	肉用牛肥育経営の経営発展と財務行動に関する研究

論文調査委員 (主 査) 教授 稲 本 志 良 教授 辻 井 博 教授 吉 田 昌 之

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、肉用牛肥育経営の経営発展と財務行動の関係を、資金の借手・貸手双方の観点から考察することを目的として、理論的、実証的分析を行っている。

序章では、経営発展と財務行動に関する分析の枠組みを提示し、関連する先行研究の整理を通して、以下の章で解明すべき4つの課題を設定している。

第1章では、肉用牛肥育経営の特質に関する商品的特質、技術的特質、主体的特質、制度的特質の4つの側面からの整理、経営形態の分析視角と諸類型の整理を行い、経営発展と経営形態の関係を明らかにしている。また、企業的経営の概念を規定した上で、企業的経営に発展するために満たすべき要件を、先に整理した経営形態の分析視角に従って具体的に整理し、肉用牛肥育経営における企業的経営の位置づけとわが国におけるその存在意義を明らかにしている。更に、これら一連の考察を踏まえて、本論文で取り上げる調査事例の代表性とそれらを分析に用いる意義を明らかにし、企業的肉用牛肥育経営の経営発展の実態を整理している。

第2章では、資金調達管理のなかの資本構成管理問題に注目し、肉用牛肥育経営の経営発展と資本構成の関連について理論的考察を行っている。この考察において、第1に、企業財務論におけるレバレッジ効果の分析の枠組みに従って、収益性・安全性の視点に立った最適資本構成決定モデルを構築して、経営発展と資本構成との関連を理論的に明らかにしている。第2に、資本構成管理のもう一つの側面である資金調達形態に関して注目し、金融仲介理論における企業と銀行の金融取引慣行の分析の枠組みに従って、資金調達形態が資本構成に与える影響分析モデルを構築して両者の関連を理論的に明らかにしている。

第3章では、経営形態別・取引形態別にみた肉用牛肥育経営の特徴に関する記述統計分析を行い、この分析結果と、第2章における経営発展と資本構成に関する理論的考察をふまえて、肉用牛肥育経営の経営発展と資本構成に関する実証的分析を行っている。その結果、経営発展と資本構成の関連に関して、経営発展の速度として捉えられる総資産成長率の水準と負債水準には負の関係のあることを示している。また、資金調達形態と資本構成の関連に関して、農協から資金調達する経営体の負債比率は農協以外の金融機関から資金調達する経営体のそれに比較して高いことを示している。

第4章では、経営発展の過程にある肉用牛肥育経営にとって重要となる資金管理のあり方を整理した上で、資金管理費用の節約と支払能力の維持を同時に可能とする資金管理モデルを、資金会計論に依拠しつつ構築している。そして、以上に考察した資金管理のあり方や資金管理モデルの含意が、経営発展の過程にある肉用牛肥育経営においてどのような行動として現れているかを、事例分析を通して検証している。

第5章では、わが国の代表的な農業金融機関の一つである農林漁業金融公庫を取り上げ、肉用牛肥育経営の経営発展の過程で、公庫融資がどのように貢献し得るかについて理論的、実証的分析を行って以下の点を明らかにしている。私経済的観点からみた公庫融資の貢献として、政策金融機関である農林漁業金融公庫が情報の非対称性の大きい肉用牛肥育経営に対し

て十分な情報生産を行った上で融資をすれば、従来から指摘されてきた直接効果としての個別経営改善効果に加え、間接効果としての民間金融機関からの資金誘導効果ももたらされることを明らかにしている。

第6章では、農協の貸出行動が肉用牛肥育経営の経営発展に対して及ぼす影響を金融仲介理論の枠組みと事例分析を通して考察している。その結果、現状の農協の貸出行動は、農協プロパー資金の過剰融資、農協利用の強制という問題点を有しており、そのため逆選択の現象を引き起こし、結果的に、信用リスクと企業の肉用牛肥育経営の農協離れを促進させる、という悪循環が生じてしまうことを示している。そして、これらの分析を通して、肉用牛肥育経営の経営発展に対する農協貸出行動の課題を整理している。

論文審査の結果の要旨

近年の国際的、国内的にみたわが国の肉用牛肥育経営をめぐる経営環境の変化のもとで、企業の肉用牛肥育経営が成立し、徐々に増加する傾向にある。これらの企業の肉用牛肥育経営の経営発展は、収益性の向上に代表される経営成長と安全性の維持に代表される経営安定の2つの目標が同時に追求される長期・動態的過程であり、実物的側面からの接近と同時に、財務的側面からの接近を必要としている。

本論文は、これまで研究が希薄であった農業経営の経営発展に関する財務的側面からの接近に主軸をおいて、わが国の肉用牛肥育経営の経営発展と財務行動に関する理論的、実証的研究を体系的に行ったものであり、評価できる点は以下の通りである。

(1)肉用牛肥育経営における商品的、技術的、主体的、制度的特質を考慮して、経営発展の分析において欠かせない、収益性の向上と安全性の維持をとともに考慮する最適資本構成決定モデルを、企業財務論の枠組みに依拠して構築すること、また、資金調達形態が資本構成に与える影響分析モデルを、金融仲介理論の枠組みに依拠して構築することに成功している。

(2)上記の理論的考察の結果に基づき、経営発展と資本構成との関係に関する実証的分析を、個票データを用いて行い、1)経営発展の速度を示す総資産成長率の上昇は負債比率に負の影響を与えること、2)農協から資金調達する経営体の負債比率は、農協以外の金融機関から資金調達する経営体のそれに比較して高く、負債に対する感応度が大きいことを明らかにしている。

(3)経営発展と資金管理の関係の分析において、従来ほとんど考慮されてこなかった資金管理に伴う費用を考慮に入れ、経営体が資金管理費用を節約し、かつ、支払能力を維持するための資金管理モデルを資金会計論に依拠して構築することに成功している。

(4)上記の理論的考察において提示した収益性の向上と安全性の維持をとともに考慮する資金管理モデルを、事例分析によって検証し、経営発展の過程にある経営体は、支払能力を維持すると同時に、資金管理に伴う費用の節約も常に考慮に入れながら、一定水準の運転資金を保有することを明らかにしている。

(5)肉用牛肥育経営の経営発展と財務行動の関係の考察において、単に資金の借手側の借入行動だけでなく、資金の貸手側の貸出行動も考慮して考察を行ない、肉用牛肥育経営の経営発展は、わが国を代表する農業金融機関である農林漁業金融公庫及び農協の貸出行動の影響を強く受けていることを、理論的、実証的分析によって明らかにしている。

このように、本論文は、長期・動態的過程である肉用牛肥育経営の経営発展における最適資本構成、資金調達形態、資金管理について理論的、実証的に論じたものであり、農業会计学、農業経営学、農業金融論及び畜産経営論の発展に寄与するところが大きい。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成13年9月20日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。